

令和3年度 第1回 北九州市立美術館協議会 議事録

名称 令和3年度 第1回北九州市立美術館協議会

報告

報告1 令和2年度事業実施結果について

報告2 美術館友の会活動状況について

議事

議題 北九州市立美術館運営評価について

開催日時

令和3年12月21日(火) 14時～16時

開催場所

北九州市立美術館 アネックス レクチャールーム

出席者

(会長) 山梨 俊夫 全国美術館会議事務局長
(委員) 菅 章 大分市美術館館長
外山 典子 北九州市立竹末小学校 校長
原田 美紀 原田・川原法律事務所 弁護士
新谷 幸子 福岡県立八幡中央高等学校 教諭
森山 秀子 久留米市美術館 副館長兼学芸課長
林 光孝 北九州市立熊西中学校校長
野依 智子 福岡女子大学教授
舟木 ヤス子 北九州市婦人団体協議会会長
大久保 大助 NPO法人KID's work 代表理事
門田 彩 北九州市立大学文学部准教授
百留 康隆 毎日新聞西部本社事業部長
安永 繁文 北九州商工会議所参事
坂本 百合子 市民委員

(事務局) 後小路 雅弘 北九州市立美術館 館長
田上 裕之 北九州市立美術館 副館長
鐘ヶ江 祐二 北九州市立美術館 普及課長
那須 孝幸 北九州市立美術館 学芸課長
宮本 真彦 北九州市立美術館 普及係長
手銭 康明 北九州市立美術館 普及課
落合 朋子 北九州市立美術館 学芸課
重松 知美 北九州市立美術館 学芸課

議事録

事務局	本日の配布資料、議事の説明、傍聴者の確認（1名）、館長挨拶、会長挨拶、委員挨拶
報告 1 「令和2年度事業実施結果について」 報告 2 「美術館友の会の活動状況について」	
事務局	報告 1、報告 2 についての説明
会長	令和2年度の事業実施結果及び美術館友の会活動状況について、ご質問のある方は挙手をお願いします。
委員	友の会の会員の方の年齢構成がわかるか。年配の方が多いのか若い人が多いのか。
事務局	年配の方が多い。60歳以上の方が何パーセントというような数字は現在持ち合わせていない。
議題	北九州市立美術館運営評価について
事務局	議題についての説明
会長	今の報告について皆さんのご意見を伺いたい。評価項目が5つに分かれているので、その5つの項目一つ一つについて、皆さんのご意見を伺っていきたい。
会長	今、どこの美術館でも作品と美術図書についてデータ構築作業に立ち向かっていて、十分な資金と人がいないというのが実情である。 ただし、これはやっていかないと、美術館のアーカイブを作るという作業は、将来に向けて非常に大事になってくるし、全国の美術館で網の目を作っていくところが非常に大事なことになるので、ぜひその対処を見つけていただきたいと思う。
委員	市で、外部委員を入れた行政評価をしていると思うが、それとこの美術館の運営評価がどういうふうに連動しているか、この美術館協議会の意見が、財政局等にどう上がってそれが反映されるのか、そういう機会があるのか、根本的なところを教えて欲しい。
事務局	市の行政評価とは一体化していない。ただ、美術館協議会で決まったことについて、協議会から提言を受けたということを財政局に上げることはできる。
委員	ここの協議会で行われる評価はそのまま市に届くというよりも、美術館として今後の課題を受けたり、それについての解決を探っていくという理解の方が近いか。
事務局	そうである。
委員	これは要するに館長の諮問機関ということか。
事務局	美術館協議会は館長の諮問機関である。

委員	<p>予算の話がされたが、令和2年度の評価を今やっている。予算というのはもう来年、令和4年度になると思うが、そこはどう考えているか。</p>
事務局	<p>今回、協議会は、コロナの影響で通常より遅れて12月に開催しているが、本来は5月に開催している。通常なら、協議会の内容を受けて次年度の予算を要求することは可能である。</p>
会長	<p>例年、本日やっている協議会は夏前にする。多くの自治体の予算編成は夏場、夏の終わりから秋にかけて始まる。今の時期にはもう骨子が固まりかけているという状態なので疑問を持たれたと思うが、今、事務局から説明があったようにコロナの関係でこの会の開催が遅れたので、できる部分を来年度に出していきたいという考え方を私どもは持っていればよいか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
会長	<p>他にないか。</p>
委員	<p>行政評価の話が出たが、行政評価ではコレクション展の回数とか、そういったものの数値目標を出しているということによいか。</p>
事務局	<p>美術館協議会の評価は、人数・回数等の数値目標ではなく、例えばお客様の反応等を重視している。行政評価は、わかりやすいように回数、参加人数等が成果指標となっている。</p>
委員	<p>報告1の実施結果について、入館者数とかが出ていたが、合計で前年度との比較は出ていたが、企画展とかコレクション展が減少はしていると思うが、それぞれ前年度と比較してどうかというのが見えないといけないなと思っている。</p> <p>加えて行政評価の方ではそのような数値目標が出てきているということであれば、直接の関連・反映がこちらの協議会と無いかもしれないが、参考としてその数値も知りたいと思った。それは難しいのか。</p>
事務局	<p>次回の協議会の方で、比較数値を出して皆様に配布することは可能である。</p>
事務局	<p>10年ほど前はこの協議会でも入館者数、いわゆる数値目標というのを具体的に掲げて、どれくらい入った、収益がどれくらいあったということに関して皆様からご意見をうかがったこともあったが、行政評価と非常に内容が被ってくるということで、この協議会に関しては、数値は、一方で目標ではありながら、美術館としてのクオリティとか、お客様へのサービス等、数値では見えないところを協議しようというご意見をたくさんいただき、現在の内容に変わってきている。</p>
委員	<p>社会教育の場でもやはり数値目標に引っ張られると質の問題が見えなくなってきた、とても難しいところだと思う。数値目標が全てだとは思っていないので、参考までにどういう計画を立てているのかがわかれば有難いと思う。</p>

会長	<p>今の話だが、この形に落ち着くまでに結構な時間をかけてきた。美術館の活動内容をきちんと外から見たいという趣旨をもってこの協議会が始まった。数値目標にこだわりを持たずに美術館活動を見てくださると有難いのではないかと思う。</p>
会長	<p>他にないか。</p>
委員	<p>データベースを構築するのにどのような作業工程があるのか知りたい。例えば一つの工程が全部専門家じゃないとできないのか全部お金を払わないとできないのか。</p> <p>あるいはここの美術館は色々な資源がある、バックヤードとか収蔵庫とかも含めて資源。その資源を活用してそれが見られる活動、こういうデータベース構築にボランティアとして関わったら、そういった所を見られるとか、関わりを持ってできるところ、面白そうなところと出来るところが一致したら、人が来てくれるのではないか。そのデータベース、打ち込みの作業は分かるが、どう調べて打ち込み作業があるのか、手書きのものを見てそれを打ち込みするのが早い人だったらそれをして、切り分けるとできることがあるのではないかと思った。</p>
事務局	<p>データベースの入力の工程についてはおっしゃるとおり大きく二つある。単純に入力すれば済むこと、これは外部委託に対応できる。もう一つが内容について学芸員が一つ一つ確認しながら更新していく。データというのは常に変わっていくものなので、作品名、作家名、これは変わらないと思う。</p> <p>例えば40数年前にアメリカから購入した作品、「レシピ」という作品がある。これは邦訳名が「料理法」になっている。現在、これはレシピと書いた方がわかりやすいのではないかなど、更新することはやはり判断が必要である。機械的に入力していくという部分だけではないということは確かに多い。</p> <p>それから美術館のバックヤードは、収蔵庫には入れないし、お客さんがご覧になってもつまらないのではないか。収蔵庫は髪の毛一本から拾う体制で、不特定多数の方を入れるのは非常に困難。</p>
会長	<p>バックヤードはあまり面白くないと言ったが、一般の方から見たら非常に面白いかもしれないのではないか、つまり普段見られない秘密の場所という意味で面白いかもしれない。国際的にも、バックヤードを見せる美術館、例えば、今、ロッテルダムで建設している新しい現代美術館はまさにバックヤードを見せる美術館になっている。みせることができる収蔵庫にするには莫大なお金がかかるからそんなことは出来ないが、収蔵庫・バックヤードというのは秘密の場所の面白さもある。</p> <p>もう一つ委員が言われていたデータベース構築について、例えば友の会員の人たちに手伝ってもらう、これは非常に有効な方法である。美術館において、入力するデータは、作品を購入したとき、寄贈を受けたとき、学芸員が全部そのデータを調べて台帳に記載している。データベース構築の時にそのデータを入力する。ただそれが大量になってくると、入力する時の書式をどう統一するか、また全国的にデータを共有するためどのような書式がいいのかが問題にな</p>

	<p>ってくる。書式や方向方式が決まれば、美術について特に知識がない方でもできる。データというのは適宜動いているから、動いた部分を反映するのは学芸員じゃないと出来ない。データ入力自体は単純だが、入力方式にあわせた民間会社が開発したシステムの導入経費が必要となる。国会図書館が率先して実施しているが、美術館ではまだ国内4館のみである。</p>
委員	<p>以前からデータベース整備については気になっており、他の評価が非常に高いのにデータベース整備の評価が低いため総合評価が低くならざるを得なくなっている。私どもも実は同じような状況で、データベース化を進めている。</p> <p>ただ北九州市立美術館と私どもの美術館では質も量も大きな差がある。私どもはまだ収集を始めて間もないので、手打ち入力でも大丈夫だし、記憶をたよりに入力できる状態だが、実は無理やり民間企業のソフトを取り入れた。そして来年には必ず公開だけはしたいというふうに思っている。</p> <p>北九州市立美術館の今のデータベース化はどこまで進んでいるのか知りたい。おそらく今までの目録なども出しているのだから、データとしてはあるはずで、画像等もフィルムはあるはずでデジタル化がまだなのかなと思っている。そのあたりを教えて欲しい。</p>
事務局	<p>当館は、4年前のリニューアルオープン時にすべての作品を全部点検してそれをデータベースに反映させている。ただ、すべてが完全に反映できているかというと非常に大きな疑問が残る。作品の状態をチェックしたカルテは、すべて手書きの紙でそろっている。それはまったくデータベース上には反映されていない。作者名、作品名、制作年等基本的なデータは入っているが、カルテ上にあるものを反映させていく作業がほとんどできていない。コレクション展で作品を展示する度に更新している。</p> <p>このペースで収蔵品約8000点ある中であながち8000枚のデータで済むのかということではなく、1点につき裏表があったりだとか複数点あったりだとかというものがあるので非常に数が増えていく。それが今回目標にしている一般公開のレベルまで精度が上がっているかというと、とても公表できる状態ではなく、現在、学芸員が間違いや更新を見つける度に訂正している。更新作業を進めながら精度をあげていっているということになる。項目によっては全く手つかずということになる。図書に関してもリストができていない。これは当館が開館してもうすぐ50年になるが八幡美術館時代から数えると60年以上の歴史がありその頃からの資料もデータベース化していくとなると全く目途が立っていない状況である。</p>
会長	<p>普通に考えるとほかに難しい問題がある。例えば50年前に取ったデータは、今の時点でもう一度取り直さないとデータのとり方が違ってくる。それと作品の場合は特に、著作権の問題があり図版も公開できないというようなことが出てくる。もちろん著作権だから、著作権者のOKをとれば大丈夫であるが。ただ一般的に使うデータは、その美術館が所蔵する作品情報だけに絞り込めばいいとは思いますが、それだとデータベースとして非常に不完全なものになる。実際にやるとなるとかなり面倒。そのことを汲んだうえで、外部資金の導入を検討した方がいい。ただお金をもらえればすぐできるようなことでは全くない。</p>

会長	<p>次の評価項目に移っていきたいと思うが、評価項目 2 公開、調査研究、展覧会についてまた同じように、皆様のご意見、疑問、感想を聞きたいと思う。活発にご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>展覧会についてはこの協議会において、北九州市美術館として、観覧者数等ではなくクオリティ等の様々な指標で方向性を探っていこうということだと思う。コロナ渦という状況の中で、これまでのような展覧会は開催できない状況である。当然観覧者数等の数値目標を掲げているが、これを機に目標の考え方を変えていく必要がある。これはこちらの美術館だけではなく美術館界全体で美術館本来のあり方ということを考えていく必要があるのではないかと。</p> <p>つまり美術館に来るとするのは、有名展覧会、有名作家の有名作品をただカタログ的に確認に行くということではなく、本当に琴線に触れるような作品を個人で見に来るといった、本来の美術館のあり方、それからコレクションの価値の見直しとかを含め展覧会のそのものを考え直していくことが大切である。そうすると、美術館の外部評価そのものに反映していかなければいけない。</p> <p>つまり観覧者数の増加だけを目指す美術館ではない違う美術館を考えて、この協議会の中でも、あるいは市の当局の中でももう 1 度美術館のあり方を考えていただきたい。</p>
事務局	<p>今回の評価の中でどのように市民のニーズを把握するかという大きな課題があった。実はコロナの関係でアンケートがとれていない。頼りにしていた頼みの綱が今無いという状況なのでそれについては困ったというのが本音である。現在は、入館者数等の数字だけをおっている状況である。</p>
事務局	<p>美術館の価値を考え直すというのは本当に私どももこの 2 年間で痛感しており、改めて美術館がこの中でできることというのはどういうことかというのを考えながら取り組みたいと思っている。</p> <p>展覧会の内容については、北九州は本館・分館 2 館あるので展覧会を楽しむ人は多いと思うが、バランスを考えており、多くの世代、多くのジャンル、人気作家から地元作家まで幅広く紹介し、何か惹きつけるものがあればお越しいただけるのではないかと考えている。</p> <p>ただ閉館が続いたので PR の難しいところもあり、当面の話だが調査が非常に困難になっている。</p> <p>学芸員は展覧会の数年前から準備が始まっているので、去年・今年開催できたものについては、これまでの準備の蓄積でできたというか。今進めるべき来年再来年その後の企画の準備が同じようなやり方では難しいというのを痛感している。</p>
会長	<p>私自身は全国美術館会議に属している立場で、副会長が全国美術館会議のことに少し触れられたが、コロナのこととは別に全国の美術館で今、変化が起きている。その一番大きいことは、お金がない、作品を買うお金がないということである。これがある意味でプラスに思えて、作家たちあるいは作家の家族達、あるいはコレクター、そういう人たちが手元に持っている作品が将来的な行先として美術館を選ぶ、つまり寄贈作品がどんどん増えて、お金のない全国の公立美術館の所蔵品が豊かになっている。そうすると学芸員たちは学校の美術史</p>

で教わりもしなかった何にも知らない絵描き、或いは彫刻家の作品がいっぱい集まってくる。そうすると学芸員たちがそれを調査しないといけない。

そのことにより、それぞれの美術館が自分達のコレクションがあり、教科書的には無名の作家たちの作品がどんどん蓄積されていく。

寄贈者たちは地域を優先する。自分の出身地の美術館に、自分の大事な作品をまとめて寄贈したり、そういうことがあちこちで起きている。つまり、ブロックバスター展みたいな展覧会も大事だが、美術館運営の上ではそうじゃない人たちが調査をされていく。そのことによって、各美術館も調査研究内容、所蔵品の内容、それからやがて企画されていく展覧会の内容が変わっていく。

この美術館はそこに対して非常に熱心な美術館である。あんまりそういうことをここに打ち出していないが、地元の出身の美術作家さんからも評判がいい。

今回の寄贈でも、野見山暁治さんの作品がまとまって入ってくる。野見山暁治さんは今年百歳になった文化勲章受章者だが、彼が百歳になって手元にある作品を全部美術館に渡そうということになり、全国の美術館にうまく振り分けている。九州の福岡出身なので、この美術館に大量に作品が入っている。そのようなことが、どこの美術館でも起きている。

そのような作品を大事にしていくことにより、展覧会もこれから変わっていくということが出てくるかもしれない。

全国美術館会議の地域美術研究部会の活動に、北九州市立美術館の学芸員も非常に熱心に参加している。すぐには成果が目に見えなくても、少しずつ変わっていると認識している。その変わっていく方向にこの美術館は積極的に加担している。

美術館の学芸員自身は、自分たちがおかれている、財政的にも人員的にも貧しい状況にどうしても目がいくから、そういうプラスの要素をもっと積極的に目を向けて欲しい、それを外に向けて打ち出して欲しいと思う。

展覧会も大量動員をできなくなるから、そのかわりにもっと有意義な展覧会のあり方というのをどこの美術館も連携しながらまた探っていく時期になっているのではないかと思う。

ただ行政・自治体の方が、その時に人が来ないと困るので、そこが難しい。では次の項目、3: 交流～教育普及・地域交流という、領域についても皆様のご意見ご感想を頂きたい。

委員

ミュージアム・ツアーは、学校現場ではとても評判が良い。小学校3年生に見せるということに価値があり、3年生もすごく面白がって色々と見てくれている。

私が指導主事の時に事業が立ち上がったが、3年生なのでどれがいいのか悪いのか全然わからない。とにかく自分の感性でものを見られる3年生で事業を進めてよかったと思っている。

子供たちにとっては、ここに来る時に非日常的な景色が見られるということもあり、この建物を見てまたワクワクする。本当に子どもたちがワクワクしながら見ている様子が見て取れて、この事業はよかったと思う。

	<p>ただ、1グループ4人の時は本当に良かったが、先日は8人だった。8人いると、興味を持つところが違い、ある子はこれをゆっくり見たい、ある子はこっちを見たいと多数決で行っていた。</p> <p>やはりこれは折角鳴り物入りで作った事業なので、本当は予算をつけていただいて4・5人でまわるのが、長い目でみたときに子供たちがリピーターになって、美術館っていうのは、遠いところにあるものではなくて近いところにあるものだというふうに思ってくれるのではないかと思うが、どうしても予算の関係で、今度から8人か10人ぐらいになりそうですというのを美術館の方から聞いてすごく残念に思っている。</p> <p>大きな展覧会とか無くても子供たちが喜べるので、できたらこういうところにお金をかけていただいて、せめて4・5人で見られるような環境であると次世代を育てる、まさにそこにお金をかけて欲しいと思っている。</p>
会長	<p>今のご意見、ご感想について、何か事務局でお答えしていくようなものがあるか。</p>
事務局	<p>この事業予算は、毎年10%削られていくものである。そうなるのであればどこを削るかというときに、1グループの数を4人のところを8人、10人にする可能性がある。財政当局と協議をしながら予算をふやしていきたいと思っている。</p>
会長	<p>こういうことは多分、一番とは言わないけれど予算も取りやすい領域だろうから頑張ってください。他に何かあるか。</p>
委員	<p>今回、コロナの中で、突然オンラインで授業ということで、みんな初めての中でも意外とできたというような、学校現場ではそういった部分も多少なりともあった。その中で美術館のほうでもオンラインでワークショップなどの取り組みはとても可能性があるのかなというのを感じた。もちろん、美術館で本物の本当の大きさのものを見るということが一番の醍醐味だとは思いますが、美術館に来られない層に対するPR等、可能性がすごくあるなと思った。</p> <p>例えば特別支援学校のお子さんたちも来ている子もいれば、来られない子たちがいるかもしれない。</p> <p>また、学校では来たけど、日常で保護者がここまで連れてくるのが現実的にできない、そのようなところに対するPRもあるのかなと思う。オンライン等に関して言えば、予算をかけずに、もしかするとスマートフォン1台でも何かできるのではないかなと思うので、仕事の的には増えてしまうかもしれないがそういったことを検討していただければと思った。</p>
会長	<p>他にないか。</p>
委員	<p>ワークショップをオンラインでやってるとするのは本当にすばらしいなと感じた。各中学校に教員がいるが、美術館の職員を交えての企画ができれば楽しいのかなという気がしている。中学校の教員もいろんな能力の差があるので、可能であれば研修の場として、この美術館が活用できたらありがたい。</p> <p>アートカードについて、著作権の関係がありそうだが、そういうたくさんすばらしい作品があるので、可能性は非常に広いなというふうに感じている。</p>

会長	これに対して事務局の方から、今の先生方の研修とかというお話がありますけどもなにかあるか。
事務局	<p>先生にも相談を差し上げたが、今年の夏に教育委員会と連携して、小学校の先生についてはミュージアム・ツアーの方が主体で、中学校の先生は美術もしくは美術部の先生ということで、館長の講演プラス館内の見学をしていただくということを計画していたところだが、残念ながらコロナの緊急事態宣言になり、小学校は直前にできたのですが中学校は見送りということになった。</p> <p>来年度またさらに教育委員会と協議をして、実施したいと思うし、その成果を踏まえ、先生と美術館が連携できることによって、子供たち、生徒・児童さんの方に伝わっていくので、連携を深めていきたいと思っている。</p>
会長	他にないか。では次の項目、広報、利用促進のための情報発信については、左のペーパーに説明されているのと先ほど事務局から報告説明があったが、これに対して皆さんのご意見、ご感想などあればお願いしたい。
事務局	<p>事務局の方から補足ですが、アンケートについて先ほどお話もありましたが、来館者のニーズを把握するためにとっても必要ですが、コロナ禍で自重していたが、令和2年度に GIGA・MANGA という展覧会の中で、毎日新聞社の協力を得て QR コードを利用したウェブアンケートを実施した。1 カ月間実施し、結果 73 名の回答を得ました。全入場者数の 0.8% くらいの回答率であり効果はなかったと思っている。</p> <p>また、導入にはかなりの経費がかかるということを聞いているので、現在、費用対効果を見ながらウェブアンケートを検討していきたいと思っている。</p>
会長	<p>他にご意見がなければ次の項目に行きたいと思うがよろしいか。</p> <p>項目 5 の環境・快適なアメニティ空間の演出というところについて、同じようにご意見ご感想・疑問があったらご発言頂きたい。</p>
委員	<p>防犯面というか、1 番の警備清掃受付の現場会議ということで、すごく大切な会議なのかなと思った。</p> <p>昨今もちょっと怖い事件があったが、そういうのを対象とした訓練を行っているのをマスコミとかで報じられているような状況で、対応を急がされているような状況だと思う。私は、福岡県の高校の文化連盟の担当もしており、こちらの施設を使わせていただいております、よく貸館展でおこなうことで、受付でちょっと絡んでくるお客さんの対応で、それは生徒も社会経験となるので教員も近くにいる状態で進めてはいるが、やはり子供が恐怖を覚えるお客様も今までもいた。</p> <p>もちろん教員等で対応できるものもあったが、例えば今後、凶悪な犯罪が実際に起きている中で、学校でも防犯面の対応、天災火事などの対応はおそらく今まできちんとどこもしてきていると思うが、こういったところの対応もこれから検討していかないといけないところなのかなと思った。その辺の方はどうか。</p>
会長	事務局の方から。大阪で生々しい事件がありましたけれど。

事務局	<p>そこまで実は対応を考えてはいないが、現状では、警備は外部に委託しており、何かあったら窓口の方に行く。また、酔っ払いが来ることも実はある。そのような入館者については事務局が行って外へ出すということをやっている。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ほかになにかありますか。</p> <p>無いようでしたら項目1・2・3に遡っても結構ですから全体的になにか改めてご感想を述べておきたいとか何か疑問点とかこういうことを聞いておけばよかったとかあったら是非おっしゃって頂きたいと思いますが。</p>
委員	<p>ボランティアがどれくらいの数いて、どんな活動をしているのか、人数とかコミュニケーションとか。活躍の場というのは美術館というのは色々な社会資源があり面白いことがいっぱいあると思うが、なにか手が足りないとか、専門的なことは難しいとは思いますが、なにか色々な活躍してくれやすい場所なのかなと思ったりするので、ボランティアの活動について話が無かったのもう少し報告していただけたらと思う。</p>
事務局	<p>普及課の方からボランティアの人数等を、説明させていただく。</p> <p>11月時点で34名、男性が7名、女性が27名、高齢者、83歳が最高で、最低が24歳、平均年齢が60.4歳となっている。市外の方もおり、直方・遠賀の方もいらっしゃる。</p>
事務局	<p>当館のボランティアは3つの班に分かれており、プロジェクト班、これはボランティア自らがワークショップや色々なイベントを美術館のイベントを企画する。</p> <p>それから鑑賞サポート班、これは学芸員によるギャラリートークとは別にボランティアによる作品鑑賞のサポート、これは知識を一方的にお話しすることではなく会話しながら作品を見るというところを目指している。</p> <p>三つ目が、美術情報班、主に学芸員のサポートになるが新聞の切り抜きとか、そういった情報整理をしていただいている。</p> <p>昨年度に関してはプロジェクト班、それから鑑賞サポート班共に非常に人との接触が密な活動内容であり、実質ほとんど活動できなかった状態だった。連絡についてはメールマガジン等でこちらから状況をお知らせしたり、情報をお伝えしたりとかしていたが、情報班については少ない人数でお越しいただき、可能な範囲で新聞切り抜きなどをしてもらった。</p> <p>今後、この状況がどうなるのかわからないので、活動内容についても見直しも視野に入れながら、なおかつボランティアのモチベーションも大事にしながら柔軟に考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>情報整理のところ、情報の発信とかはされていないのか。先ほど先生方がおっしゃったように例えばミュージアム・ツアーの1グループが8人になっていて、ここにその方たちが加わっているのかとか、SNSでボランティアがどんどん発信しているのかとか、職員がメインなのかとか、やれることが、どこまで関わっているのかなとか知りたくて、難しい専門的なところもあると思うが、知って、関わって学んでできることを増やしていくとなると僕らも、ボランティアとかスタッフとか関わる機会が少ないがそういうのを増やしていくと定着してくれるし、継続してくれるし、その姿を見て次の人が入ってくれると思う。</p>

	<p>そのような仕組みがあるといいなと思っており、どこまでSNSの発信とかミュージアム・ツアーのサポートとかに入っていけるのかとか教えてもらえたら嬉しい。</p>
事務局	<p>ボランティアの構成する年齢は平均で60歳を超えており、なかなかSNSを発信していくということは難しい。またボランティアの活動内容については、募集の際に活動内容を明示してそれに対して面接を受けていただき研修を受けていただくということになるので内容が変わるときには意思確認をしっかりとっていかないといけない部分もあるので十分にそこは考えながら行いたい。</p> <p>例えば美術館のボランティアは美術館にかかわりたいという方が一定数いらっしゃるとして、人とは接触したくないけれど何か貢献したい、あるいは何か美術の知識も得たいという方が少なからずいらっしゃる。</p> <p>そういう方は表に出ていくことはないが何か貢献したいという方の居場所として特に機能を果たしていくので、すべてが広報的な方向になっていくと離れていく方もいらっしゃるしそこは一つ一つクリアしていかなくてはならない部分かなと思う。</p>
事務局	<p>補足で説明します。</p> <p>ボランティアについては今、新しい取り組み、今年度試行中だが、大学生・高校生にボランティアとして活躍してもらえないかということで、ミュージアムツアーのガイド専門のスタッフがいるが、それを助けるという意味で大学生をサポートチューターとして今年試行した。北九州市立大学の先生にご協力いただき同校の文学部の学生に入らせていただいている。もう一方は戸畑にあるひびき高校が単位制の高校で、授業が昼、夕刻、夜間と別れているので比較的自由に活動できるということで、ひびき高校の美術部の学生に入って活動していただいている。小学生にとっても比較的年齢が近いので話しやすいとか、高校生大学生にとってもこういう機会を与えることで美術のファンになっていただく、また将来文化を担う人材になっていただくために取り組んでいきたい。</p> <p>ただ、ここに来るのにバスで来ないといけない、交通費がかかるということが頭の痛いところである。</p>
委員	<p>ボランティアの方のニーズ調査だけというか意向が強いような気がしたが、その方の意向も当然大事だが、逆に、こういう手が足りないから助けてじゃないが、こんな人募集とか今美術館の抱えている課題はこれですと、あえて出してみてもそれに力を貸してくれる方ならば、その方の方向性が出るのではないかと。</p> <p>先ほどのミュージアム・ツアーで、人とおしゃべりが好きな人一点だけでその方が美術の知識を得れば、そういうことは簡単じゃないけれどできると思うし、課題も資源だと思って公開していくとそういう人が美術館の魅力が当然あるので集まってくるのではないかと。ベクトルをつけて集めるといって、受けてその人の話ばかり聞くのではなく、こちら側もこうしてほしいとのいうのを出しても全然いいのではないかなと思う。</p>
会長	<p>他にどなたか。</p>

委員	<p>北九大の学生のことで授業期間中は難しいこともあると思うが連携していけたらなと思っている。</p> <p>それとは別に各項目のところでお聞きすべきことだったが、2つお尋ねしたいことがある。まず一つ目が作品の調査研究についてデータベース化のところと重なるかと思うが、入力するための調査とか所蔵作品について定期的に調査をすすめるというようなことをしているか。お忙しいということもあるのではなかなか難しいと思うがそういったことを今後やっていく可能性、予定があるかお尋ねしたいということが一点、あともう一点はオンラインでのワークショップをコロナ禍ということでオンラインを活用してワークショップをしたりYouTubeで公開発表されたり今後の可能性があると思うが、今後コロナが収まって通常という状態になった場合のネットを使った情報の発信をやる予定はあるかどうかということをお尋ねしたい。</p>
会長	事務局の方からどうぞ。
事務局	最初の一つ目の質問はデータベースの更新をしていくような調査ということか。
委員	いえ結局はデータベース化と関わっているなというだけで調査研究っていうことを何と言うか、定期的にやっていくスケジュールみたいなのを立てる予定なのか、立てられているのか。
事務局	<p>分かりました。現状は、年に3回コレクション展を行っているが、当館はテーマ展、毎回特集を決めて、それぞれのテーマに基づいた作品を選定し公開している。当館にどのような作品があってどういう傾向があってあるいはこういうテーマだったらどんなものがあるとか掘り起こしは常に行っている。</p> <p>そこに関しては50数年行ってきたコレクション展以外にも企画展でも地元作家の掘り起こしなども行っているのでそうしたことがコレクションの研究にもつながっていったりということはある。</p>
委員	ありがとうございました。展覧会や企画展ごとに進めていくということで。
事務局	<p>続いてオンラインのワークショップですが今年もオンラインによるものは検討して、現在も改善できるということで行っているが、オンラインであることによって家庭からも参加しやすい、さきほど委員からお話があったが来館しづらい子どもたちとか一般の方も参加しやすいというメリットは十分にある。</p> <p>そのメリットについて確定したいと思うが、昨年一年間オンラインを通算で10回以上はしている。行ってみた感じだと私の主観も入るがやはりオンラインのワークショップに参加できる子どもたちの家庭環境に限られるというのがある。情報がいったとしても参加できない家庭が一定数あるのかなと思ったので公立の美術館としてどのような対応ができるのかということも踏まえながら行っていきたいと思うし、美術館は作品を、実物を見るというのが非常に大きな本質なので、なかなか画面で見ただけで見た気になるというのとまた違う世界なので、いかにご来館いただくかというのは大きな主軸なのかなとは思っている。</p>

委員	<p>オンラインを活用するのはもちろんいいと思うが、それが実物を見に来ることに繋がる内容というか企画というか、私も実物に勝るものはないと思う。</p>
会長	<p>他に何かあるか。 事務局案の運営評価について、協議会として承認してよろしいか。 (異議なし) 北九州市立美術館運営評価については、協議会として事務局案を承認する。</p>
会長	<p>これで議事は一応終わるが、その他の事項で委員の方たちあるいは事務局も含めて何か話しておくべき事あるいは報告というような事があるか。</p>
委員	<p>会長の方から美術展というのは、今後、通常通りにできるものではないというお言葉があった。私たち民間会社にとってもそこはすごく気になっているところであり、コロナ以降なかなか展覧会に人が集まらなくなって、どういうことが他のところでおきているかというともう入場料の値上がりしかない。 そうするとまた遠のいていく方もおられるというそういうジレンマに陥っている。 やはりこういう公立の美術館としては住んでおられる市民の方々にいいものを見せて文化的価値を高め市民の文化意識を持ってもらうというのが大切だと思っている。 そういう面で私たちもどちらかという収益の方が大事になってくるが、その中で両方をどのようにやっていくかという主催するメディアの方としても、今回、委員としての意見ではないが主催する方の身で考えていかななくてはいけないなと思っている。</p>
会長	<p>まさに新聞社の事業部、毎日さんだけではなくて色々な新聞社がこれからは儲けなくてもいいんだ、赤字出さなければいいんだという風な考え方で美術館の人と協力しながら是非いい展覧会を進めていっていただきたいと思う。 それでは、これで議事すべてを終了する。</p>